

<調査対象>

◎調査期間：平成29年7月下旬～平成29年8月上旬
◎調査対象：当会情報連絡員（業界組合）58団体

（回答 44団体 ・製造業：31団体中23団体
・非製造業：27団体中21団体）

<結果のポイント>

（1）4月の採用実績について

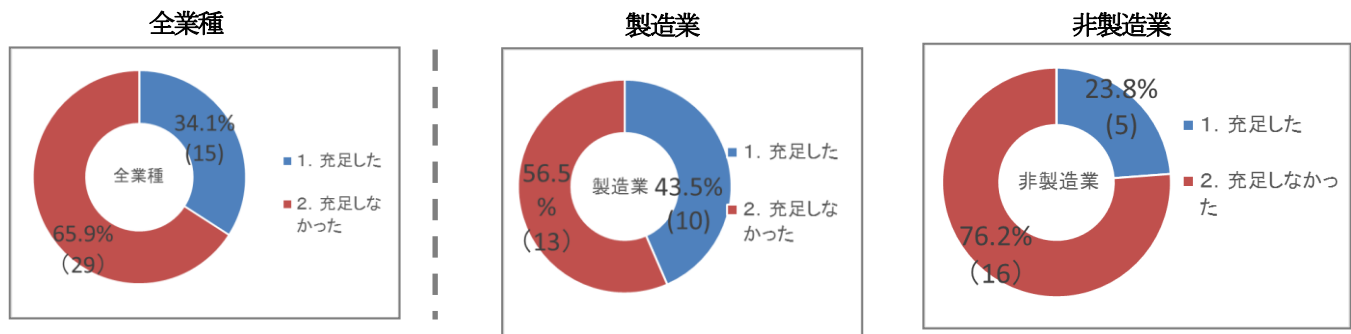
5月の雇用失業情勢によると有効求人倍率は1.90倍と平成3年5月以来の高水準となり、雇用情勢は着実に改善しているが、人手不足を背景に採用意欲の高い企業が多い中、採用活動に苦慮していることが考えられる。そこで、県内の中小企業者のこの春（4月）の採用実績の充足の程度がどのような結果であったのか把握するため、業界組合に聞いてみたところ、次の通りであった。

○全業種では、「充足しなかった」が65.9%で「充足した」（34.1%）よりも多い回答結果となった。業種別でみると、製造業においては、全業種と同じ傾向で「充足しなかった」が多かったものの、その割合は低めで56.5%であった。「充足しなかった」理由を見ると、「応募が少なかった」が最も多く、他の理由としては“大手採用増の影響”、“賃金要求が高い”、“業績が悪い”などの理由があった。非製造業も、同様に「充足しなかった」との回答が多かったが、製造業よりもその割合が高く76.2%であった。その理由を見ると、「応募が少なかった」が同様に最も多く、次いで“当業界に人気がない”という理由が多かった。昨年7月の調査でも「充足しなかった」は67.4%と本調査とほぼ同じ結果であった。前回の理由としては“業績が悪い”との回答が多かったが、今回は少なく、今年は企業業績ではなく、応募者の態度が採用に大きく影響していることが窺える。また、充足したと回答した理由は、説明会を“複数回開催した”、“人員配置に余裕がある”などであった。

（2）最近の採用状況（採用の難しさ）について

また、最近の採用状況（採用の難しさ）が以前と比較してどうか聞いたところ、全業種では「難しくなった」と言う回答が65.9%、「変わらない」と言う回答が34.1%、「容易になった」と言う回答は見られなかった。製造業では、難しくなったが73.9%、非製造業では57.1%と、製造業の方が難しくなったとの回答が多かった。「難しくなった」理由は、製造業、非製造業共通して“当業界に人気がない”が最も多く、“次いで大手志向が強い”との回答が続いた。人手不足感が高まる中、大手の採用意欲が強まるなどの影響もあり、中小企業にとってますます採用環境が悪化していることが窺える。

① 4月の採用において必要人員を充足できたか？



② ①において「充足しなかった」理由

製造業

応募が少なかった(なかった)	5
定期採用していない	3
賃金要求が高い	1
大手採用増の影響	1
業績が悪い	1
コメントなし	2

非製造業

応募が少なかった(なかった)	5
当業界に人気がない	3
能登地域の若手人材不足	1
経験者採用のため	1
売上に対して適正人数	1
PR不足	1
定期採用していない	1
活動を計画通りに進まなかった	1
コメントなし	2

③ 採用が「難しくなった」理由

製造業

当業界に人気がない	5
大手志向が強い	3
全体の有効求人が上がっているため	2
条件が合わない(休日・給与等)	2
当県の製造業の割合が高い	1
運転手が不足	1
高校生が少ない	1
大手採用増の影響	1
コメントなし	1

非製造業

当業界に人気がない	5
大手志向が強い	3
慢性的な人手不足	1
条件が合わない(休日・給与等)	1
即戦力を求めているため	1
雇用余力がない	1